

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.8.29-9.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

16:1 アブラムの妻サライは、アブラムに子を産んでいなかった。彼女にはエジプト人の女奴隷がいて、その名をハガルといった。

16:2 サライはアブラムに言った。「ご覧ください。【主】は私の子を産めないようにしておられます。どうぞ、私の女奴隷のところにお入りください。おそらく、彼女によって、私は子を得られるでしょう。」アブラムはサライの言うことを聞き入れた。

16:3 アブラムの妻サライは、アブラムがカナンのに住んでから十年後に、彼女の女奴隷であるエジプト人ハガルを連れて来て、夫アブラムに妻として与えた。

16:4 彼はハガルのところに入り、彼女は身ごもった。彼女は、自分が身ごもったのを知って、自分の女主人を軽く見るようになった。

16:5 サライはアブラムに言った。「私に対するこの横暴なふるまいは、あなたの上に降りかかれはよいのです。この私が自分の女奴隷をあなたの懐に与えたのに、彼女は自分が身ごもったのを知って、私を軽く見るようになりました。【主】が、私とあなたの間をおさばきになりますように。」

16:6 アブラムはサライに言った。「見なさい。あなたの女奴隷は、あなたの手の中にある。あなたの好きなようにしなさい。」それで、サライが彼女を苦しめたので、彼女はサライのもとから逃げ去った。

16:7 【主】の使いは、荒野にある泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけた。

16:8 そして言った。「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか。」

すると彼女は言った。「私の女主人サライのもとから逃げているのです。」

16:9 【主】の使いは彼女に言った。「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」

16:10 また、【主】の使いは彼女に言った。「わたしはあなたの子孫を増し加える。それは、数えきれないほど多くなる。」

16:11 さらに、【主】の使いは彼女に言った。「見よ。あなたは身ごもって男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。【主】が、あなたの苦しみを聞き入れられたから。」

16:12 彼は、野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼は、すべての兄弟に敵対して住む。」

16:13 そこで、彼女は自分に語りかけた

【主】の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。彼女は、「私を見てくださる方のうしろ姿を見て、なおも私がここにいるとは」と言ったのである。

16:14 それゆえ、その井戸はベエル・ラハイ・ロイと呼ばれた。それは、カデシュとベレデの間にある。

16:15 ハガルはアブラムに男の子を産んだ。アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた。

16:16 ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

ここにはたくさんの不信仰な行動があります。神の約束を待たずに奴隷との間に子をもうけてしまったこと。妻がそれを提案し、夫が受け入れるというリーダーシップの欠如。みごもったという

ことで、主人を見下す浅はかな態度。それを夫のせいにする責任転嫁。サラをなだめるために責任ののりのように任せてしまうアブラム。本当にそれでいいじめてしまうサラの悲しい人間性。本当に現代に起こりうるものが、様々にあります。気をつけなければいけません。

そのような中でも神様は働かれます。性格の悪いハガルにも慈しみを与え、また「身を低く」と謙遜を勧めて、成長させようとしておられます。また子どもにも関しても約束してくださって安心を与えておられます。

混乱を招くようなことをして計画を進めることはしないようにし、謙遜と忍耐をまず自分から始めましょう。もしも彼らのように失敗しても、いや失敗したからこそ主のあわれみに頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？





17:1 さて、アブラムが九十九歳のとき、
 【主】はアブラムに現れ、こう言われた。
 「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。
 17:2 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に立てる。わたしは、あなたを大いに増やす。」
 17:3 アブラムはひれ伏した。神は彼にこう告げられた。
 17:4 「これが、あなたと結ぶわたしの契約である。あなたは多くの国民の父となる。
 17:5 あなたの名は、もはや、アブラムとは呼ばれない。あなたの名はアブラハムとなる。わたしがあなたを多くの国民の父とするからである。
 17:6 わたしは、あなたをますます子孫に富ませ、あなたをいくつもの国民とする。王たちが、あなたから出てくるだろう。
 17:7 わたしは、わたしの契約を、わたしとあなたとの間に、またあなたの後の子孫との間に、代々にわたる永遠の契約として立てる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。
 17:8 わたしは、あなたの寄留の地、カナンのご全土を、あなたとあなたの後の子孫に永遠の所有として与える。わたしは彼らの神となる。」
 17:9 また神はアブラハムに仰せられた。
 「あなたは、わたしの契約を守らなければならない。あなたも、あなたの後の子孫も、代々にわたって。
 17:10 次のことが、わたしとあなたがたとの間で、またあなたの後の子孫との間で、あな

たがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中の男子はみな、割礼を受けなさい。
 17:11 あなたがたは自分の包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたとの間の契約のしるしとなる。
 17:12 あなたがたの中の男子はみな、代々にわたり、生まれて八日目に割礼を受けなければならない。家で生まれたしもべも、異国人から金で買い取られた、あなたの子孫ではない者もそうである。
 17:13 あなたの家で生まれたしもべも、金で買い取った者も、必ず割礼を受けなければならない。わたしの契約は、永遠の契約として、あなたがたの肉に記されなければならない。
 17:14 包皮の肉を切り捨てられていない無割礼の男、そのような者は、自分の民から断ち切られなければならない。わたしの契約を破ったからである。」

子孫の祝福のためには子どもが不可欠ですが、アブラムは99歳になっており高齢にもかかわらず、子が与えられるまでに13年も待ったことがわかります。全能の神の語原は「エル・シャダイ」で全てを備えた神という意味です。全てを備えておられるので、この神様に頼り従えば良いのです。
 ですから「全き者であれ」とは、完全無欠な人間になりなさいという意味ではなく、神をあくまでも信頼する全き信仰で生きなさいという意味です。アブラムが信頼しきれずにハガルに子どもを生ませたことも思い起こされます。
 「多くの国民の父」の原語はアブ・ハモンです。アブラムの名前をアブラハムと変えたことで、その自己像を常に持たせようとの御心です。誰で

も神様の目で自己像をつくる必要があります。神様の祝福や約束が実現するために、私たちは見えるものや出来事を求めますが、実は必要なものは自分自身の整えなのです。
 割礼は男子の性器の先端の皮を切ることで、衛生上の意味もあったようですが、他の地域でも行われていました。神様はこれに主に従う決心とその印の意味を持たせたのです。それは一生の印であり、親から子に伝えるものともなりました。新約では心に割礼を受けるように命じています。生涯の決心を明確にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのご部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



31日 水曜

創世記

17:15 また神はアブラハムに仰せられた。「あなたの妻サライは、その名をサライと呼んではならない。その名はサラとなるからだ。」

17:16 わたしは彼女を祝福し、彼女によって必ずあなたに男の子を与える。わたしは彼女を祝福する。彼女は国々の母となり、もろもろの民の王たちが彼女から出てくる。」

17:17 アブラハムはひれ伏して、笑った。そして心の中で言った。「百歳の者に子が生まれるだろうか。サラにしても、九十歳の女が子を産めるだろうか。」

17:18 そして、アブラハムは神に言った。「どうか、イシュマエルが御前で生きてますように。」

17:19 神は仰せられた。「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ。あなたはその子をイサクと名づけなさい。わたしは彼と、わたしの契約を立て、それを彼の後の子孫のために永遠の契約とする。」

17:20 イシュマエルについては、あなたの言うことを聞き入れた。必ず、わたしは彼を祝福し、子孫に富ませ、大いに増やす。彼は十二人の族長たちを生む。わたしは彼を大いなる国民とする。」

17:21 しかし、わたしがわたしの契約を立てるのは、サラが来年の今ごろあなたに産むイサクとの間にである。」

17:22 神はアブラハムと語り終えると、彼のもとから上って行かれた。

17:23 そこでアブラハムは、その子イシュマエル、彼の家で生まれたすべてのしもべ、また、金で買い取ったすべての者、すなわち、アブラハムの家のすべての男子を集め、神が



彼に告げられたとおり、その日のうちに、彼らの包皮の肉を切り捨てた。

17:24 アブラハムが包皮の肉を切り捨てられたときは、九十九歳であった。

17:25 その子イシュマエルは、包皮の肉に割礼を受けたとき、十三歳であった。

17:26 アブラハムとその子イシュマエルは、その日のうちに割礼を受けた。

17:27 彼の家の男たちはみな、家で生まれた奴隷も、異国人から金で買い取った者も、彼と一緒に割礼を受けた。

サライとは王女または女王と言う意味で、サラも意味は同じですが、より新しい言い方のようにです。サラはその子孫から国々の王が出るような、王女の源のような女性であることには違いないのですが、その導きの段階が新しくなったことを感じさせます。

イサクは原語ではイツハークと発音し、笑ったという動詞はワイツハークと発音します。同じ発音です。ですからイサクの意味には、「アブラハムが有り得ないと笑うようなことでも実現する神の力」ということと「有り得ないこととあきらめていた男の子が誕生した喜びの笑い」ということと両方の意味があるのでしょうか。

神が主体となって与えてくださった約束は必ず実現します。約束が与えられたら、無理と笑いたくなるようなことも、喜びの笑いに変えましょう。またイシュマエルへの祝福のように、神は偏らずに愛してくださる方です。偏見を捨てて受け入れていきましょう。

アブラハムはそれら神様のすばらしさを知り、信頼して割礼をする決心をしました。このようにその日のうちに、主の御心はすぐに実行しました。そうでないなら様々な邪魔が入り、実現できなくなってしまうものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 木曜

創世記

18:1 【主】は、マムレの檜の木のところ、アブラハムに現れた。彼は、日の暑いころ、天幕の入り口に座っていた。

18:2 彼が目を上げて見ると、なんと、三人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはそれを見るなり、彼らを迎えようと天幕の入り口から走って行き、地にひれ伏した。

18:3 彼は言った。「主よ。もしもよろしければ、どうか、しもべのところを素通りなさらないでください。

18:4 水を少しばかり持って来させますから、足を洗って、この木の下でお休みください。

18:5 私は食べ物や少し持って参ります。それで元気をつけて、それから旅をお続けください。せっかく、しもべのところをお通りになるのですから。」彼らは答えた。「あなたの言うとおりにしてください。」

18:6 アブラハムは、天幕のサラのところへ急いで行って、「早く、三セアの上等の小麦粉をこねて、パン菓子を作りなさい」と言った。

18:7 そして、アブラハムは牛のところへ走って行き、柔らかくて、おいしそうな子牛を取り、若い者に渡した。若い者は手早くそれを料理した。

18:8 それからアブラハムは、凝乳と牛乳と、料理した子牛を持って来て、彼らの前に出したので、彼らは食べた。彼自身は木の下で給仕をしていた。

18:9 彼らはアブラハムに言った。「あなたの妻サラはどこにいますか。」彼は答えた。「天幕の中におります。」

18:10 すると、そのうちの一人が言った。「わたしは来年の今ごろ、必ずあなたのとこ

ろに戻って来ます。そのとき、あなたの妻サラには男の子が生まれています。」サラは、その人のうしろの、天幕の入り口に聞いていた。

18:11 アブラハムとサラは年を重ねて老人になっていて、サラには女の月のものがもう止まっていた。

18:12 サラは心の中で笑って、こう言った。「年老いてしまったこの私に、何の楽しみがあるでしょう。それに主人も年寄りです。」

18:13 【主】はアブラハムに言われた。「なぜサラは笑って、『私は本当に子を産めるだろうか。こんなに年をとっているのに』と言うのか。

18:14 【主】にとって不可能なことがあるだろうか。わたしは来年の今ごろ、定めた時に、あなたのもとに戻って来る。そのとき、サラには男の子が生まれている。」

18:15 サラは打ち消して言った。「私は笑っていません。」恐ろしかったのである。しかし、主は言われた。「いや、確かにあなたには笑った。」

「主は」とありますから、受肉以前の御子であったと言う人もありますが、ヘブル書には「御使いを知らずにもてなした」ともあります。いずれにしてもアブラハムは主と交わったのです。それが直接か、御使いを通してかは分かりませんが、その点は聖書と聖霊よって主と交わる私たちも同じです。それは旅人をもてなしてあげるという、彼の親切な人がらがきっかけになっています。人への愛と配慮を忘れない生き方の中で、主との交わりを深めたいものです。主は初めてサラの信仰を確認なさいまし



た。夫婦は一体なので、片方だけの信仰では立ち行かなくなることが起こるので。実際にはサラは信じ切れませんでした。そこを主は扱われたのです。

主の御心は夫婦などの共同体にもたらされることが多いのですが、そこには一致が必要です。常に交わり、分かち合い、主のみことばを共に聞くようにしまししょう。夫などリーダーに与えられた信仰を分かち合ってもらい、それに従っていきましよう。それでも従えないときは、サラのように、直接主から語っていただく必要もあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 金曜

創世記

18:16 その人たちは、そこから立ち上がって、ソドムの方を見下ろした。アブラハムは彼らを見送りに、彼らと一緒にいった。

18:17 【主】はこう考えられた。「わたしは、自分がしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。」

18:18 アブラハムは必ず、強く大いなる国民となり、地のすべての国民は彼によって祝福される。

18:19 わたしがアブラハムを選び出したのは、彼がその子どもたちと後の家族に命じて、彼らが【主】の道を守り、正義と公正を行うようになるためであり、それによって、【主】がアブラハムについて約束したことを彼の上に成就するためだ。」

18:20 【主】は言われた。「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、彼らの罪はきわめて重い。」

18:21 わたしは下って行って、わたしに届いた叫びどおり、彼らが滅ぼし尽くされるべきかどうかを、見て確かめたい。」

18:22 その人たちは、そこからソドムの方へ進んでいった。アブラハムは、まだ【主】の前に立っていた。

18:23 アブラハムは近づいて言った。「あなたは本当に、正しい者を悪い者とともに滅ぼし尽くされるのですか。」

18:24 もしかすると、その町の中に正しい者が五十人いるかもしれません。あなたは本当に彼らを滅ぼし尽くされるのですか。その中にいる五十人の正しい者のために、その町をお赦しにならないのですか。」

18:25 正しい者を悪い者とともに殺し、その

ため正しい者と悪い者が同じようになる、というようなことを、あなたがなさることは絶対にありません。そんなことは絶対にあり得ないことです。全地をさばくお方は、公正を行うべきではありませんか。」

18:26 【主】は言われた。「もしソドムで、わたしが正しい者を五十人、町の中に見つけたら、その人たちのゆえにその町のすべてを赦そう。」

18:27 アブラハムは答えた。「ご覧ください。私はちりや灰にすぎませんが、あえて、わが主に申し上げます。」

18:28 もしかすると、五十人の正しい者に五人不足しているかもしれません。その五人のために、あなたは町のすべてを滅ぼされるのでしょうか。」主は言われた。「いや、滅ぼしはしない。もし、そこに四十五人を見つけたら。」

18:29 彼は再び尋ねて言った。「もしかすると、そこに見つかるのは四十人かもしれません。」すると言われた。「そうはしない。その四十人のゆえに。」

18:30 また彼は言った。「わが主よ。どうかお怒りにならないで、私に言わせてください。もしかすると、そこに見つかるのは三十人かもしれません。」すると言われた。「そうはしない。もし、そこに三十人を見つけたら。」

18:31 彼は言った。「あえて、わが主に申し上げます。もしかすると、そこに見つかるのは二十人かもしれません。」すると言われた。「滅ぼしはしない。その二十人のゆえに。」

18:32 また彼は言った。「わが主よ。どうかお怒りにならないで、もう一度だけ私に言

わせてください。もしかすると、そこに見つかるのは十人かもしれません。」すると言われた。「滅ぼしはしない。その十人のゆえに。」

18:33 【主】は、アブラハムと語り終えると、去って行かれた。アブラハムも自分の家へ帰っていった。

なぜここでアブラハムのとりなしの記事があるのかは不明です。信仰の父として、よき模範として後世に学ばせるためでしょう。またはイエス様のとりなしのひな型かもしれません。神様がアブラハムに打ち明けられたのは、彼にとりなしをさせたかったに違いありません。とりなしとはそれほど重要なものです。人を主の前にとりなしができて、はじめて成長したクリスチャンといえるでしょう。

アブラハムは第一に、罪ゆえに滅びゆく人々への愛がありました。第二に、神の宣言を信じて赦しを請うという信仰がありました。そして第三に、自分はちり灰であるという謙遜がありました。間違いを犯している人を変えようとしても、自分も謙遜にならなければパリサイ人と同じです。批判、断罪、裁きの前にとりなす者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 土曜

創世記

19:1 その二人の御使いは、夕暮れにソドムに着いた。ロトはソドムの門のところに座っていた。ロトは彼らを見ると、立ち上がって彼らを迎え、顔を地に付けて伏し拝んだ。

19:2 そして言った。「ご主人がた。どうか、このしもべの家に立ち寄り、足を洗って、お泊まりください。そして、朝早く旅を続けてください。」すると彼らは言った。「いや、私たちは広場に泊まろう。」

19:3 しかし、ロトがしきりに勧めたので、彼らは彼のところに立ち寄り、家の中に入った。ロトは種なしパンを焼き、彼らのためにごちそうを作った。こうして彼らは食事をした。

19:4 彼らが床につかないうちに、その町の男たち、ソドムの男たちが若い者から年寄りまで、その家を取り囲んだ。すべての人が町の隅々からやって来た。

19:5 そして、ロトに向かって叫んだ。「今夜おまえのところにやって来た、あの男たちはどこにいるのか。ここに連れ出せ。彼らをよく知りたいのだ。」

19:6 ロトは戸口にいる彼らのところへ出て行き、自分の背後の戸を閉めた。

19:7 そして言った。「兄弟たちよ、どうか悪いことはしないでください。」

19:8 お願いですから。私には、まだ男を知らない娘が二人います。娘たちをあなたがたのところに連れて来ますから、好きなようにしてください。けれども、あの人たちには何もしないでください。あの人たちは、私の屋根の下に身を寄せたのですから。」

19:9 しかし、彼らは言った。「引っ込んでいろ。」そして言った。「こいつはよそ者のくせに、さばきをするのか。さあ、おまえを、



あいつらよりもひどい目にあわせてやろう。」彼らはロトのからだに激しく迫り、戸を破ろうと近づいた。

19:10 すると、あの人たちが手を伸ばして、ロトを自分たちのいる家の中に引き入れて、戸を閉めた。

19:11 家の戸口にいた者たちは、小さい者から大きい者まで目つぶしをくらったので、彼らは戸口を見つけようとする力も萎えた。

ロトはソドムの門のところに座っていました。町の門に座るといえるのは高い地位、指導的地位を表しています。ロトは罪ある町の近くにいましたが、今やその真っ只中にいることがわかります。罪ある世でそれなりの地位にいるということは、妥協や取引きがあり、信仰が純粋ではなかったと想像できます。またはさばき司のように振る舞いとありますから、反感を買うような手法をも使ったでしょう。

ロトが2人の娘を犠牲にしようとしていることから、ロトの人間性がわかります。短絡的な浅慮の持ち主であったことが推測されます。

この世の成功を求める前に、自分のあり方を見つめ直してみましょう。ロトを反面教師として。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



19:12 その人たちはロトに言った。「ほか
にだれか、ここに身内の者がいますか。あな
たの婿や、あなたの息子、娘、またこの町に
いる身内の者をみな、この場所から連れ出し
なさい。」

19:13 私たちは、この場所を滅ぼそうとして
います。彼らの叫びが【主】の前に大きいので、
【主】はこの町を滅ぼそうと、私たちを
遣わされたのです。」

19:14 そこで、ロトは出て行き、娘たちを妻
にしていた婿たちに告げた。「立って、この
場所から出て行きなさい。【主】がこの町を
滅ぼそうとしておられるから。」しかし、彼
の婿たちには、それは悪い冗談のように思わ
れた。

19:15 夜が明けるところ、御使いたちはロト
をせき立てて言った。「さあ立って、あなた
の妻と、ここにいる二人の娘を連れて行きな
さい。そうでないと、あなたはこの町の咎の
ために滅ぼし尽くされてしまいます。」

19:16 彼はためらっていた。するとその人た
ちは、彼の手と彼の妻の手と、二人の娘の手
をつかんだ。これは、彼に対する【主】のあ
われみによることである。その人たちは彼を
連れ出し、町の外で一息かさせた。

19:17 彼らを外に連れ出したとき、その一人
が言った。「いのちがけで逃げなさい。うしろ
を振り返ってはいけない。この低地のどこ
にも立ち止まってはならない。山に逃げな
さい。そうでないと滅ぼされてしまうから。」

19:18 ロトは彼らに言った。「主よ、どうか、
そんなことになりませんように。」

19:19 ご覧ください。このしもべはあなたの

ご好意を受けました。そしてあなたは私に
大きな恵みを施してください、私のいのち
を生かしてくださいました。しかし、私は
山にまで逃げることはできません。おそら
く、わざわざが追いついて、私は死ぬで
しょう。

19:20 ご覧ください。あそこの町は逃れるの
に近く、しかもあんなに小さい町です。ど
うか、あそこに逃げさせてください。あ
んなに小さいではありませんか。私のいのち
を生かしてください。」

19:21 その人は彼に言った。「よろしい。わ
たしはこのことでも、あなたの願いを受け
入れ、あなたの言うあの町を滅ぼさない。

19:22 急いであそこへ逃れなさい。あなたが
あそこに着くまでは、わたしは何もできな
いから。」それゆえ、その町の名はツォア
ルと呼ばれた。

婿たちもロトのことばを信じませんでした。日
頃から、彼のことばには重みがなかったのでしょ
う。または人がらが不誠実であったのかもしれま
せん。私たちは常日頃の関係が大切なので、信頼
されるような関係を築きましょう。

御使いは無理に妻と娘たちを連れ出しましたが、
聖書ではこれを「主のあわれみ」と表現していま
す。私たちは願いに反して、急ぎ立てられるよう
なこともあります。主に守られる者にとっては、
それが救いの道であることも多いのです。

ロトは主の指示には従わないで、安易な妥協を
しました。主のあわれみよって認められましたが、
結局ツォアルに住むことができませんでした。そ
れが伏線となって、親子の関係が歪んでしまっ
たのでした。主はできないことを要求なさいませ
んから、示されたことはできると信じて実行しま
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

